

## 旧約聖書を読んで感じること (118) 預言者 ハガイ

バビロンから帰還したエズラ達の群団にはエズラのほかに、預言者ハガイ、総督ゼルバベル、大祭司ヨシュアという重要な人物がいました。ダレイオス王の第二年六月一日に、主の言葉が預言者ハガイを通して、ユダの総督シャルティエルの子ゼルバベルと大祭司ヨツァダクの子ヨシュアに臨んだ。(ハガ 1:1)



ハガイ Giovanni Pisano, 1285-97

帰還した民は、何はさておき自分たちの住まいを確保しようと奔走していましたが、それに対して、「今、お前たちは、この神殿を／廃虚のままにしておきながら／自分たちは板ではった家に住んでいてよいのか。今、万軍の主はこう言われる。お前たちは自分の歩む道に心を留めよ。」(ハガ 1:4) と、民の最初にすべきことは、神殿再建への道だと、方向を指し示したのがハガイです。収穫も少なく、満足するほどには飲み食いできず、金も貯まらない、その理由は、主の神殿が廃墟のままであるのに、民が自分の家のために走り回っているから、神が祝福を与えられないのだと言ったのです。すべきことを後回しにしていると糾弾しました。イスラエル人には目に見える具体的な豊かさは神の祝福、神からの賜物でしたから、貧しい現状の理由を納得し、祝福を受けたいがために、ハガイの言葉に耳を傾けました。ハガイの言葉の中に、民は神の御声を聞き、神を畏れ敬ったのです。ハガイは「わたしはあなたたちと共にいる、と主は言われる」(ハガ 1:13)と民を励ましました。民は希望をもって、神殿再建に向かって奮い立ったのでした。

特にハガイは「ユダの総督ゼルバベルに告げよ。わたしは天と地を揺り動かす。わたしは国々の王座を倒し／異邦の国々の力を砕く。…その日には、と万軍の主は言われる。わが僕、シャルティエルの子ゼルバベルよ／わたしはあなたを迎え入れる、と主は言われる。わたしはあなたをわたしの印章とする。わたしがあなたを選んだからだ」と／万軍の主は言われる。」(ハガ 2:21)と、ゼルバベルを主の僕と呼んで、温かい愛を注いで、使命を果たすように励ましています。



ゼルバベルは、イエス様の系図の中にも名前が出てきます。イエス様から 11代さかのぼる人物、「バビロンへ移住させられた後、エコンヤはシャルティエルをもうけ、シャルティエルはゼルバベルを」(マタ 1:12)として、また、20代さかのぼる人物、「ヨハナン、レサ、ゼルバベル、シャルティエル、ネリ」(ルカ3:27)として登場してきます。ゼルバベルの父がシャルティエルという点は同じですが、そのあとに違いがあります。けれども、ゼルバベルはダビデ家の系統、つまり、王家の血統を継ぐ者であり、曾祖父はヨシヤ王に当たります。王族も捕囚の身となれば、「王」という言葉は禁句でしょう。エレミヤが主はこう言われる。「この人(ヨヤキム王の子コンヤ)を、子供が生まれず／生涯、栄えることのない男として記録せよ。彼の子孫からは／だれひとり栄えてダビデの王座にすわり／ユダを治める者が出ないからである。」(エレ 22:30)と予言したように、ダビデ王家は消えました。けれども民の指導者として用いられ、帰国を果たし、神殿再建の指揮をとったのです。ゼルバベルに誇りを持たせ、神に選ばれた者として光栄を感じさせたのはハガイでしょう。



ハガイは祭司の務めについても、神殿には「聖別した捧げもの」をするようにと、分かりやすい例をとって、教育しました。大祭司ヨシュアに、「この新しい神殿の栄光は昔の神殿にまさると万軍の主はいわれる。この場所にわたしは平和を与える」(ハガ2:9)と希望を語り、勇気を出せと励ましました。ヨシュアはどれだけ勇気づけられたことでしょうか。素朴な言葉を用いながらも、率直に語り、神が共におられることを常に感じ、希望に生きた預言者ハガイです。